【東広島・竹原地区】 国道2 国道185 国道375 ヒヤリまっぷ

～みなさんから寄せられたヒヤリ・ハット体験を地図にしました～

『ヒヤリ・ハット体験』とは、交通事故になりそうだった体験のことです。

第1位 70件 竹原市：忠海中町１丁目付近

【国道185号】

第2位 29件 東広島市：安芸津町木谷付近

【国道185号と町道の交差点】

第3位 21件 東広島市：安芸津町湯盛付近

【国道185号】

第4位 15件 東広島市：西条バイパス東交差点付近

【国道2号】

第5位 13件 竹原市：田万里町付近の急カーブ

【国道2号】

第6位 12件 東広島市：県立豊田高校付近

【国道185号】

第7位 8件 東広島市：安芸津駅南交差点

【国道185号と市道の交差点】

第8位 7件 竹原市：竹原市港町１丁目付近

【国道185号】

第8位 7件 竹原市：竹原市忠海東町４丁目付近

【国道185号】

第8位 7件 東広島市：安芸津町小松原248番地付近

【国道185号】

ワースト11～20位

順位	路線	地点名	件数
11	R185	竹原市中央３丁目付近	6
11	R185	竹原市本町1丁目付近	6
11	R185	竹原市役所南付近	6
11	R２	道照交差点	6
11	R185	JR安芸津駅付近	6
11	R185	安芸津町木谷トンネル付近	6
11	R２	東広島市西条町御園宇付近	6
11	R２	志和インター入口付近	6
19	R185	榊山交差点	5
19	R185	金丸交差点	5
19	R185	竹原市高崎町付近	5
19	R185	竹原市福田町付近	5
19	R２	東広島市西条町早稲木付近	5
19	R185	竹原市吉名町付近	5

(C)ALPS MAPPING K.K.

東広島・竹原地域

国道 2 ROUTE　国道 185 ROUTE　国道 375 ROUTE

ヒヤリまっぷ

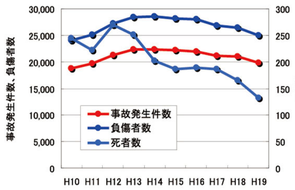
みなさんのヒヤリ・ハット体験による交通安全マップ

国土交通省中国地方整備局・広島国道事務所

広島県下の交通事故状況　1

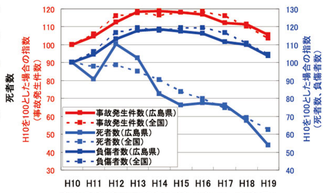
事故発生件数・負傷者数は、減少傾向にあるものの、10 年前よりも高いレベルにあります。

- 交通事故による死者数は、近年の交通安全対策の効果もあって、過去 10 年間で概ね半減しています。
- 事故発生件数※、負傷者数についても近年減少傾向にありますが、10 年前の数値と比べると、まだ高いレベルにあります。
- 過去 10 年間の広島県内での事故発生状況（事故発生件数、負傷者数、死者数）の推移は、全国とほぼ同じ傾向を示しています。



広島県の交通事故発生状況の推移

※事故発生件数：死傷事故の件数

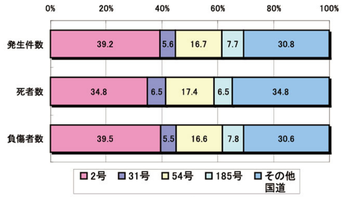


事故発生状況の推移比較（全国・広島県）

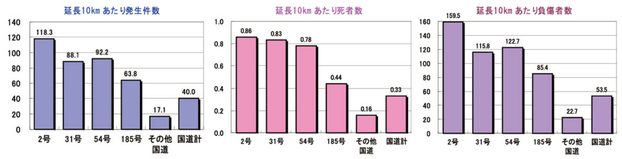
資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

路線別では、国道 2 号に事故が集中する傾向が見られます。

- 広島県全体の事故のうち、約４割が国道２号で発生しています。また、負傷者数で見ても約４割、死者数では約 35%を占めています。
- 延長 10km あたりで見ても、国道 2 号で事故が多発する傾向が見られ、次いで国道 31 号や 54 号で多く発生しています。



路線別の事故発生状況



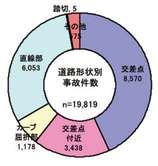
路線別の事故発生状況（延長 10km　あたり）

資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

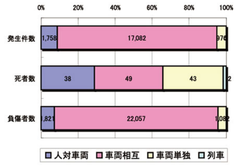
広島県下の交通事故状況　2

事故発生場所別では、交差点における事故が全体の約４割を占めています。また、追突や出合頭等の車両相互の事故が大半を占めています。

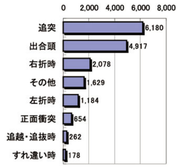
- 事故発生場所別では、交差点における発生件数が 43%を占めています。
- 事故類型別では、車両相互の事故が最も多く全体の 86%を占めており、このうち、追突や出合頭の事故が特に多く発生しています。また、死者数については、人対車両や車両単独の事故の割合も高くなっています。



道路形状別事故件数



事故類型別発生状況

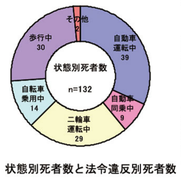


車両相互事故の内訳

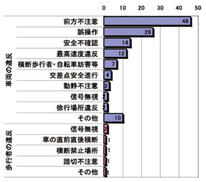
資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

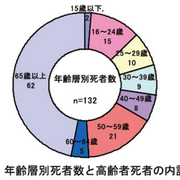
自動車運転中の死者が全体の約３割を占め、前方不注意による事故が多発しています。また、横断中の高齢者事故が多発しています。

- 状態別の死者数の内訳は、自動車運転中が最も多く 32%を占め、歩行中がこれに次いでいます。
- 法令違反別では、前方不注意による事故が最も多く発生しています。
- 全死者数のうちの 47%が高齢者であり、そのうち横断中の事故が多くなっています。

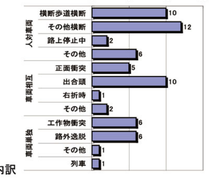


状態別死者数と法令違反別死者数





年齢層別死者数と高齢者死者の内訳



資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

東広島・竹原地域における交通事故状況

都心部を中心に事故が多発していますが、東広島・竹原地域内にも一部事故率の高い箇所が存在します。

- 広島県内の死傷事故は、広島、福山の都心部を中心に多発する傾向が見られます。東広島・竹原地域では、国道 2 号や国道 185 号の一部に死傷事故率がやや高い区間が見られます。

資料：国土交通省 中国地方整備局

東広島・竹原地域の直轄国道における事故多発箇所（死傷事故率の高い交差点）

- 東広島・竹原地域の直轄国道における死傷事故率を見ると、最も高い箇所は、国道 185 号「竹原市役所南交差点」の 724（件/億台キロ）となっています。
- 上位 5 位の交差点は、殆んどが国道 185 号上で、全て交差点が事故多発箇所となっている点に特徴があります。

第 1 位　国道 185 号　竹原市役所南交差点　死傷事故率 724件/億台キロ

第 2 位　国道 2 号　道照交差点　死傷事故率 666件/億台キロ

第 3 位　国道 185 号　新本渡橋西詰交差点　死傷事故率 548件/億台キロ

第 4 位　国道 185 号　日本橋東詰交差点　死傷事故率 499件/億台キロ

第 5 位　国道 185 号　竹原高校入口交差点　死傷事故率 483件/億台キロ

？？　「ヒヤリまっぷ」って何　？？

ヒヤリまっぷ作成の目的

- 国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑止するための交通安全対策に取り組んでいます。
- 今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ･ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。

「ヒヤリ･ハット体験」とは、
交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

- 今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ･ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただくとともに、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリまっぷ」としてとりまとめました。

ヒヤリまっぷの活用方法

- お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ･ハット箇所」の有無や位置をご確認下さい。
- 「ヒヤリ･ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ･ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- 地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリまっぷ」の情報を関係者の間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

ヒヤリまっぷ作成にあたってのアンケートにご協力いただいたみなさま

広島国道事務所管内を対象に、交通安全（ヒヤリ･ハット体験）アンケート調査を実施し、その結果、以下のとおり合計 1,813 名の方々から、貴重な体験情報やご意見をいただきました。
ご協力いただいた方に、改めて御礼申し上げます。【アンケート実施期間：平成 20 年８月～10 月】

●運転免許更新者の方々	500 名
●プロドライバーの方々（トラック、バス、タクシー、JAF、郵便配達の各ドライバー）	297 名
●中学校、高校の生徒の方々	432 名
●公共施設等の利用者の方々	584 名

ヒヤリまっぷ・アンケートに関するお問い合わせ先

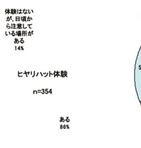
国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所
〒734-0022　広島市南区東雲２丁目 13-28
TEL：（082）281-4131（代表）　FAX：（082）286-7897
E-mail：hirokoku@cgr.mlit.go.jp

東広島・竹原地域のヒヤリ・ハット状況 1

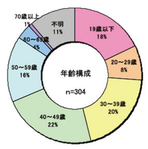
交通安全アンケートをもとに、皆さんから寄せられたヒヤリ･ハット体験の状況を整理すると、以下のとおりとなっています。

約８割の方（ほぼ全ての年齢層）がヒヤリ･ハットを体験！

- 交通安全アンケートに回答していただいた方の 86%が、ヒヤリ･ハットを体験しています。
- 年齢層別では、30 歳台と 40 歳台がそれぞれ 20%程度を占めていますが、その他、ほぼ全ての年齢層がヒヤリ･ハット体験しています。



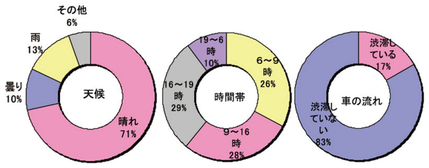
ヒヤリ･ハットの体験状況



ヒヤリ･ハット体験者の年齢構成

ヒヤリ･ハット体験は、「晴れの日」の「午前中から夕方」、「渋滞していないとき」に集中！

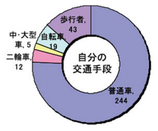
- 天候別では、「晴れ」が 71%を占めています。
- 時間帯別では、「６～９時」「９～16 時」「16～19 時」がほぼ同程度の割合となっています。
- 「渋滞していない時」のヒヤリ･ハットが、全体の 83%を占めています。

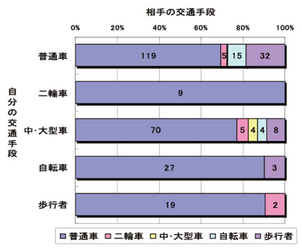


ヒヤリ･ハット体験の発生状況の内訳（天候、時間帯、車の流れ）

ヒヤリ･ハット体験は、自分･相手ともに普通車運転中に多い！

- 自分が普通車を運転中にヒヤリ･ハット体験したケースが大半（76%）を占めています。
- ヒヤリ･ハット体験した際の相手の交通手段についても、ほとんどが普通車です。



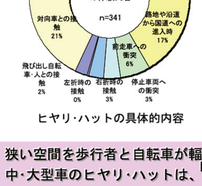


ヒヤリ･ハット体験時の交通手段（自分･相手）

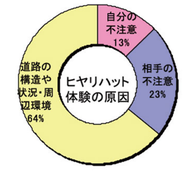
東広島・竹原地域のヒヤリ・ハット状況 2

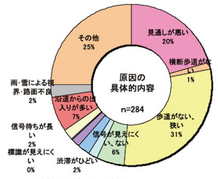
「歩道の未整備」や「見通しの悪さ」が原因となって引き起こるヒヤリ･ハットが多い！

- ヒヤリ･ハットの具体的内容としては、「対向車との接触」や「路地や沿道から国道への進入時」などが多く挙げられています。
- ヒヤリ･ハットの原因は、「道路の構造や状況･周辺環境」が過半数（64%）を占めており、その具体的内容としては「歩道がない･狭い」「見通しが悪い」が多く挙げられています。



ヒヤリ･ハットの具体的内容

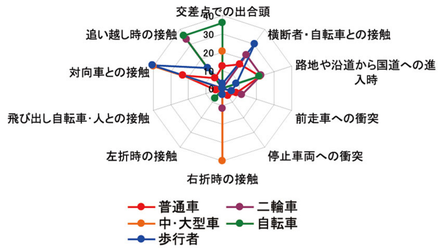




ヒヤリ･ハットの原因

狭い空間を歩行者と自転車が輻輳することによる「接触」のヒヤリ･ハットが多い！
中･大型車のヒヤリ･ハットは、「対向車との接触」や「右折時の接触」が多い！

- 歩行者については、「対向車との接触」や「横断者･自転車との接触」、また自転車については「追い越し時の接触」や「交差点での出合頭」のヒヤリ･ハットが多く挙げられています
- 中･大型車のドライバーは、「対向車との接触」や「右折時の接触」のヒヤリ･ハットが多くなっています。



交通手段別のヒヤリ･ハット体験の内容

みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めます！

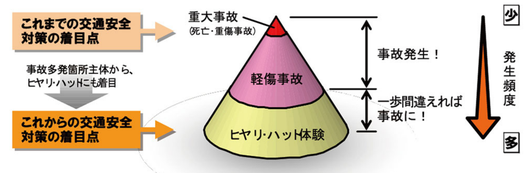
１件の重大事故発生の背景には、その何百倍ものヒヤリ･ハットが！

- 広島県内では、132 人の死亡事故（平成 19 年実績）を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ･ハット体験が発生しているといわれています。

※ハインリッヒの法則

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ･ハット箇所にも着目した対策に！

- これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所（事故率が高い箇所）に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。
- 重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ･ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所の対策に加えて、ヒヤリ･ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。



事故とヒヤリ･ハットの関係と、交通安全対策の着目点

地域のみなさまと共に交通安全対策を検討！

- これまでも、交通安全対策の検討に際し、現地検討会を開催するなど、地域のみなさまのご意見等を対策に反映するための機会を設けてきました。
- 今後も、交通事故（死傷事故率）のさらなる削減に向けた対策を引き続き進めていく予定ですが、地域の実情をふまえた適切な対策を講ずるためには、ヒヤリ･ハット情報の提供など地域のみなさまのご協力が不可欠となります。
- 誰もが安全に安心して利用できる道路環境の実現に向け、みなさまのご協力をお願いいたします。

竹原市内での地域のみなさまを交えた現地検討会の様子